

令和2年度使用小学校用教科用図書の採択結果等について

採択地区名 豊田

種 目	発行者	採 択 理 由
国 語	東書	<p>手引きに、具体的内容に関する「問い」を設定し、学習を進めるための「手だて」をもとに解決していくことで、課題解決型学習を進めている。</p> <p>単元を「つかむ」「取り組む」「振り返る」で構成していることを示し、児童の主体的な学習を促している。</p> <p>児童のキャラクターの話し合い例を参考に課題解決に向けて話し合う体験を仕組み、「できるようにになりたい」ことを引き出している。</p> <p>各単元の学習で身に付けたい力を「言葉の力」として示しており、どんな力を身に付けるのかが明確に分かる。また、「生かそう」も各単元末に明記し、言葉の力の活用を促している。</p> <p>「ノートの作り方」のページがあり、工夫されたノートを例示し、学習を振り返ることの大切さを示している。</p>
書 写	東書	<p>「書写のかぎ」を核として、課題解決型の単元構成になっている。また、巻末に「書写のかぎ」がまとめられており、押さえなければならない内容が明確である。</p> <p>「書写のかぎ」が虫食い問題で記述され、文字を整えて書く原理原則の定着を図っている。</p> <p>「文字のいずみ」で、日本古来から伝わる道具や文字について取り上げ、伝統や文化との関連を図っている。</p> <p>「世界の文字」や「文字に込めた思い」等、写真とともに、文字に対する関心を高める資料を掲載している。</p> <p>書写で学習する用語をインデックスとして常に示し、学習事項と既習事項が一目で分かる。</p>
社 会	東書	<p>主体的に学習に取り組む工夫として、単元ごとに「つかむ」の後に、「学習課題」を示し、見開きごとに問いを提示しながら、「調べる」学習をし、学習課題について調べて分かったことを整理し、「まとめる」というページを設けている。</p> <p>本文以外の記述の工夫として、「学び方コーナー」により、「見る・聞く・ふれる」「読み取る」「表す・伝える」の3つの観点で、場面や目的に応じた学習方法や学習の仕方を具体的に示している。</p> <p>言語活動の充実を図るために、巻頭の「学び方コーナー」に、項目ごとに整理する、発表会を開く、新聞を作る、レポートを書く、意見文を書く等の言語活動が示されており、「いかす」「まとめる」等のページにゴールイメージをもつための作品例と具体的な言語活動の進め方の説明がある。</p>

種 目	発 行 者	採 択 理 由
地 図	帝国	<p>主体的に学習に取り組む工夫として、タブレットパソコン等を使ってクイズや資料等が検索できるよう、ページのタイトル横に表示されている「二次元コード」読み取ると、コンテンツメニューを見ることができるようになっている。</p> <p>我が国の国土と歴史に対する理解と愛情を育てるための工夫として、「日本とそのまわり」で日本の領土と領海、領空、接続水域、排他的経済水域について図で示すとともに、東西南北の端、日本固有の領土について写真を掲載し説明をしている。</p> <p>思考力・判断力・表現力育成に資する言語活動の工夫として、「地図マスターへの道」のコーナーを設定し、レベル1～3までのクイズが出されている。レベル3では、児童が絵図や資料を使って、理由や違いを説明させるようにしている。</p>
算 数	啓林館	<p>単元の最初に、「準備」としてこれまでの学習の復習があり、それらを基に学習を進めていくという流れが分かりやすい。</p> <p>単元のまとめは、振り返りをしっかりしていくことによって、答えが出ればいいのではなく、どうやって考えたかを追究していく内容になっている。</p> <p>「学びをいかそう」では、日常生活にいかすような問題や発展問題が載っている。</p> <p>いくつかの単元の間「復習」のページが設けられており、間違えやすい問題には星印をつけ意識して取りまとめることで、学習の定着を図れるようになっている。</p>
理 科	啓林館	<p>問題に対するまとめを示すとともに、単元末の「ふり返ろうまとめノート」で単元全体の学習内容を分かり易くまとめている。さらに「たしかめよう」では、単元の学習内容を振り返る問題を解くことで定着を図っている。</p> <p>単元の始めに「はじめに考えてみよう」があり、課題を見つけられるようになっている。</p> <p>巻末の「理科につながる算数のまど」に、理科の学習と関連する算数科の内容があり、教科間のつながりを示している。</p> <p>巻末に、「植物探検カード」(第3学年)、「雲の観察カード」(第5学年)等が掲載されている。</p> <p>巻末に「表す」というコーナーを設置し、「記録カードのかき方」「ノートのまとめ方」「話し合いのしかた」など言語活動の充実を目指すような内容を載せている。</p>

種 目	発行者	採 択 理 由
生 活	啓林館	<p>「かつどうべんりてちょう」や「やくそく」コーナーをリンクさせながら学びを進めることにより、生活科の基本的なスキルを身に付けることができるような工夫がある。</p> <p>児童の言葉で書かれたワークシートを提示してあるので、観察の視点等が分かりやすく、気付きを引き出す支援となっている。</p> <p>単元の中に「やってみよう」が設けられ、生活と結びつけた体験活動を取り入れている。</p>
音 楽	教芸	<p>児童の気付きを引き出すために、キャラクターの吹き出しに学習のポイントが記載されている。</p> <p>児童が感じたことや気づいたことを書き込むために、学習のポイントに応じた工夫された欄が位置付いている。</p> <p>1年間で学習する内容が、「音楽の木」として「歌う・きく・演奏する・つくる」の4領域で全学年共通で整理されて示されている。</p> <p>巻末の「振り返りページ」に、各学年で学習した音楽を形づくっている要素が、関連するページ番号とともに記載されている。</p> <p>鑑賞と表現の学習が密接に関連するよう歌唱や器楽と鑑賞学習のねらいが設定されている。</p>
図画工作	日文	<p>巻頭に、「使ってみよう材料と用具」というページを設け、表現に必要な用具の扱い方や技法、材料についてイラストや写真を使って分かりやすく説明している。</p> <p>「ひらめきポケット」のページでは、「見る」「さわる」「組み合わせる」等、表現活動のもとになる「ものの見方」「とらえ方」を工夫することの大切さを伝えようとしている。</p> <p>各学年の発達段階に合わせて、現実にあるものや起こったことをもとにしなが、ないものや見えないものを想像させるページを設けている。「表現したい」という意欲を持たせるよう工夫している。</p> <p>グループで思い出を表現する題材を設定している。何をどう表現したいかを考える段階で、対話が生まれるように仕組みられている。</p> <p>振り返りの例が示されていることで、どのような観点で表現すればよいか分かりやすく、言語表現の育成が期待できる。</p>

種 目	発行者	採 択 理 由
家 庭	開隆堂	<p>問題解決型学習を実現するために、小題材を三つのステップを基本として構成しているが、第5学年は題材を細かく構成・配列し、スモールステップで学習できるようになっている。</p> <p>大題材の導入に「学習のめあて」を示している。大題材の終わりの「ふり返ろう」により、導入ページにある「学習のめあて」に戻って振り返りを行うように促している。</p> <p>実習や製作のページには、基礎的・基本的な技能の定着を図るため、「できたかな」の自己評価の囲みを掲載するとともに、ステップごとに「学習のめあて」に沿って自分でチェックできるように「ふり返ろう」の囲みを掲載している。</p> <p>家庭科の見方・考え方を「生活の見方・考え方 4つの視点」として図化して示している。</p> <p>「考えよう」「話し合おう」「発表しよう」のマークが示されているところで、生活をよくするための方法を考えたり、説明したりする活動を取り上げている。</p>
保 健	学研	<p>各章の最後に「振り返る、深める、つなげる」を設定し、これまでの学習を振り返り、実践的に基礎的・基本的な内容を理解できるようにする項目がある。また健康に関する知っておきたい用語を「ことば」として取り上げ解説している。</p> <p>伝統や文化についての教育の充実に関する内容については、日本食や郷土料理が健康面で注目されていることや、医学や保健の分野での日本人の世界的な活躍が取り上げられている。また、他教科及び道徳の内容との関連が図られている。</p> <p>話し合う、記述する、表現するなど、コミュニケーション能力や論理的な思考力の育成を促すための言語活動が随所に設けられている。</p>
英 語	東書	<p>Picture Dictionary という別冊があり、単語や基本的な表現がイラスト入りでまとめられている。児童が授業や家庭学習において主体的に活用することができる。</p> <p>Check Your Steps という単元で使用した作品等をまとめられるページが3つある。学習した単元の内容に関連したテーマごとにスピーチを設定し、「スピーチの内容は☆いくつ?」といった記入枠を使って振り返りができる。</p> <p>どのページにも教科書下部に Small Talk があり、話すこと・聞くことに無理なく継続的に取り組むことができる仕組みになっている。</p> <p>英文の中で共通する単語や変な単語に色分けがされており、児童が共通点や相違点に気が付きやすい。</p> <p>導入部分に動画を見ることができるようになっている。</p>

種 目	発行者	採 択 理 由
道 徳	光文	<p>各教材において、児童の経験や生活の中から「問い」がもてるように、さまざまな設問の工夫がされ、児童の考えを広める視点から問いかけを行い、児童が多角的・多面的に考えられる構成となっている。また、終末で学習内容を振り返ることによって、考えや心の変容を実感することができる。</p> <p>「道徳ノート」の例を提示するとともに、巻末自己評価シート「学びの足あと」を記入することで、授業後の心の動きや学びを継続し道徳性をより深め育み、書き溜めることにより児童自らが成長を実感し、新たな課題や目標を見つけていく学習に取り組むことができる。</p> <p>コラム「みんなでやってみよう！」が全学年にあり、よりよい人間関係の構築に必要なコミュニケーションスキルを高めるための体験的な活動を提示している。</p>